

---

# 特別編まとめ

辰巳 翔

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

特別編まとめ

### 【Nコード】

N2308BA

### 【作者名】

辰巳 翔

### 【あらすじ】

今連載中の小説の特別編です。主に正月とか、バレンタインとか…などのイベントを…。…もしかしたら、裏話なんかもあるかも…！？

あけましておめでとございますー！前編（前書き）

遅くなってすいません！

グダグダですが…すいません。  
後長いです

あけましておめでとございますー！前編

リュウセイ「えっとー、あらすじにも書いてありますが、去年に書いたクリスマスパーティーの後の話なので、若干つながってたりします」

フィリア「それでもOK！という方は、そのまま下にお進みくださいー」

シンジ

「orz」

リュウセイ

「シンジ兄さん、出だしから落ち込まないでください」

シンジ

「俺本当に何やってたんだろう…クリスマスの時…orz」

フィリア

「だ、大丈夫ですって。…私なんかもっとひどかったんで…！」

シンジ

「俺ホント酒ダメだ…トラウマしか作らない…orz」

リュウセイ

「元気出してくださいって」

フィリア

「進みませんから…」

シンジ

「俺にかまわずどうぞ…orz」

リュウセイ

「じゃあ進めますねー」

カズマ

「……シンジガ落ち込みだね」  
ツバサ

「あれは…うん。全然違かった」

フェイト

「あはは…」

リュウセイ

「…どうする？メンバー紹介」

フィリア

「いやするでしょ普通」

リュウセイ

「省略できるよ？クリスマス会の時とほぼ同じっていえば…」

フィリア

「読んでない人のほうが多いと思うから却下。ていうかほぼ同じなんだから違うところもあるじゃん。…今回来てくれた方はこちらです！」

世界を守りし者達 リュウセイ、フィリア、シンジ、レン、セナ、  
なのは、フェイト、ツバサ、渡、剣崎、たつくん、愛されるバカ（  
城戸）

新たなる旅 士、ヒオリ、夏海、海東、半熟卵（翔太郎）、フィリ  
ツプ

仮面ライダー world！ オリマジ軍団（ただし、シンジ、渡、  
剣崎、たつくん、愛されるバカ、新たなる旅組の5人は除く。五代  
（旅で）、ヒビキ（鍛えてますから！）、天道（嫌な予感してこな  
かった）、良太郎（手伝い）ワタル&アスム（用事）は不在）

城戸

「俺えええええ…orz」

翔太郎

「半熟卵じゃねえ！」

巧

「……。もう諦めた」

劍崎

「今回は企画かなんかあるのか？」

リュウセイ

「リクエストとりましたから」

劍崎

「…考えが出なかつたんだな」

リュウセイ

「そのようです」

フィリア

「とりあえずあれやろうよー」

リュウセイ

「あ、そうだった。…新年のあいさつに、特別ゲストを呼んでおります！」

里中

「失礼しまーす。鴻上会長からです」

リュウセイ

「あ、じゃあお願いします」

里中

「はい」 テレビの電源入れる

タクミ

「テレビから…?」

鴻上

「ハッピーバースデー!2012年っ!!!」

後藤

「ハッピーニューイヤーです会長!」

鴻上

「新しい年の誕生日だよ!つまり…ハッピーバースデー!」

後藤

「いや、でも挨拶何でハッピーニューイヤーです!」

鴻上

「後藤君、別にいいのだよ!新しい年の誕生日なのだからっ!」

後藤

「いや、ですから…」

全員

「…」

里中

「……」 無言で電源切った

リュウセイ

「…えーっと…?」

里中

「すみませんでした。あの二人は帰ったら説教しておきます」

カズマ

「後藤さんは無実だと思うのですが!？」

里中

「止められてませんから。…では」 帰って行った

津上

「…自由な人ですね!」

シヨウイチ

「お前も十分自由だと思っただが？」

津上

「えー？」

フィリア

「えっと…仕切りなおして、」

リュウセイ

「新年、」

全員

「「「あけましておめでとつございます！」「」「」

リュウセイ

「今年もよろしく願いします！」

レン

「いやー、よかったよかった。クリスマスの時みたいな始まり方じやなくて」

セナ

「…レン君、鴻上さんのこと綺麗にスルーしてるよね？」

レン

「…それは気にするな」

渡

「気にしたら負けです、多分」

セナ

「多分ですか！？」

ソウジ

「そういえば、最初は何やるんだー？」



シヨウイチ

「めっちゃ楽しそうだなお前」

ソウジ

「だって楽しいし」

リュウセイ

「最初は…餅つき大会…って言うか、餅つきですね」

カズマ

「そっからなんだ」

フィリア

「まあまあ。楽しくやりましょ」

士

「シンジも元気出せって」

シンジ

「あーもうホント俺ってバカ…orz」

ヒオリ

「…どうします?」

ユウスケ

「…大丈夫、か?これ」

士

「…さあ?」

夏海

「さあって…」

なのは

「ねえねえ、早くやろうよ!」

リュウセイ

「だな。…準備ってしてあったっけ?」

フィリア

「なるなんとかに頼んどいたよ?」

士

「一番頼んじゃダメなやつに頼んだなおい!？」

劍崎

「何でそいつに頼んだ!？」

フィリア

「パシリです」

巧

「なら問題ないな」

城戸

「あると思うのは俺だけ？」

ツバサ

「他にもいると思うんで大丈夫だと思います」

リュウセイ

「とりあえず、外に移動しましょー」

映司

「んで、外に来てみたんだけど…」

海東

「これ、明らかにおかしいよね」

夏海

「そうですか?どうみても普通だと…」

士

「あまいなナツミカン、あいつがこんな普通のものを用意すること  
がおかしいんだ」

ヒオリ

「どう思われてるんすかなるなんとかって人」

津上

「で、でもやってみないとわかりませんよ!」

ソウジ

「そうそう。まずはやってみよう」

シヨウイチ

「…なんでお前らはやる気満々なんだよ…!」

おかしいという人が圧倒的に多いですが、結局やることになりました。

フィリア

「ちなみに、何故かライダーで餅をついてもらいます」

シンジ

「…なんで?」

リュウセイ

「さあ?」

シンジ

「おい」

映司

「でもそしたらさ、普通のだと壊れない?」

全員

「「「……あ」「」」」

鳴滝がこの後しばかれました

ライダーの力でも壊れないものに変えてもらいました

シンジ

「そこまでしてやる!?!」

リュウセイ

「企画ですから!」

フィリア

「ちなみに、もちをつく…:と云うか叩く?なく…:る?…:係と、焼く係、切る係がいます」

なのは

「フィリアちゃん、今殴るって言ったよね…:!?!」

フェイト

「なんでもちをつくじゃないの!?!」

フィリア

「…:なんでだろう?ライダーで餅つくから、普通だと面白くないし

…:」

なのは

「意外と正論!?!」

フェイト

「そうじゃな…:いや、あつてるの…:!?!」

リュウセイ

「何でもいいから、振り分けはこちら!」

餅つく(殴る)係

渡(カブトMF)、剣崎 (フォーゼロケットステイツ)、巧 (パンチホッパー)、翔太郎&フィリップ(ヒートジョーカー)、津上 (バーニング)、ユウスケ(タイタン)、シンジ(プティラ)

切る係

レン(ナイト)、ツバサ(ブレイド)、海東 (カメンライドサソード)、夏海(Rキバーラ)、シヨウイチ(ストーム)、カズマ(

ブレイドKF)、ソウジ(カブトHF)

焼く係

なのは(龍騎)、フェイト(リュウガ)、セナ(セットアップ)、  
ヒオリ(セットアップ)、城戸(龍騎SV)士(フォームライド響  
鬼)、映司(タジャドル)

リュウセイ

「以上が、振り分けです」

タクミ

「つて、僕は!？」

フィリア

「あ、リュウセイと私とタクミさんは、見張り係みたいなの？」

タクミ

「よかったー一番マシだ…!」

カズマ

「何で俺KF!？」

リュウセイ

「作者曰く、ノリです」

カズマ

「アンデットになれってかー!？」

シンジ

「それより、何で俺プティラああ!？」

映司

「サゴーズは!？」

フィリア

「…力加減できます?下手したらライダーの力でも壊れないはずの  
あれが、壊れますよ?」

シンジ・映司

「…だったね」

ソウジ

「…ハイパーゼクターはどうする？」

渡

「あ、天道さんから借りてきましたから大丈夫です」

シヨウイチ

「…奪った、ってわけじゃないよな…？」

渡

「ちゃんと許可もらってきました」

ソウジ

「じゃあ遠慮なく」 ハイパーゼクター受け取る

リュウセイ

「じゃあ餅つきはじめます」

カブトMF（渡）

「とりあえず、殴ればオッケー、なんですよね？」

リュウセイ

「ですよー。ストレス発散にもなりますよー」

カブトMF（渡）

「じゃあ…。…はっ！！」

ボコ

渡

「…今へんなおとしませんでした？」

リュウセイ

「…気のせいです。気のせいだと思ってください。…次お願いしま  
ーす」

フォーゼロケットステイツ（剣崎）

「…若干ネタバレだよなこれ？」  
リュウセイ

「…大丈夫です！思いつきりドカーンと！」  
フォーゼロケットステイツ

「（大丈夫か？）……はぁ！」

ベコ

剣崎

「まてまてまて、ベコって言ったぞおい！？」  
リュウセイ

「……次お願いしまーす」

剣崎

「スルーか！？」

パンチホッパー（巧）  
「………」

リュウセイ

「…無言やめてください、怖いつす…！」

パンチホッパー（巧）

「…思いつきりオツケーだよな？」

リュウセイ

「オツケーです」

パンチホッパー（巧）

「つらあああああ！」

バコン！

巧

「なんか気持ちが悪かった」  
リュウセイ

「よ、よかったですねー。…次お願いします」

W H J (翔太郎)

「ただのパンチ、だよな」

W H J  
フィリップ

『そうだよ。…じゃあ思いっきりゴー!』

W H J (翔太郎)

「はああああ!」

ドゴン!

剣崎

「だから…音ー!?!」

リュウセイ

「…大丈夫なはず…!」

アギトBF

「いきますよー」

リュウセイ

「お願いします!」

アギトBF

「たあ!」

めきよ

剣崎

「…おい」

巧

「今、めきよって…」

リュウセイ

巧 「…壊れても俺知りません、俺用意してませんもん…!」



「壊れたら鳴滝のせい、なのか…？」

剣崎

「さあ？用意したのは鳴滝だけど…」

クウガTF

「いくよー」

リュウセイ

「はーい」

クウガTF

「うおりゃー！」

バコーン

プトティラ（シンジ）

「……………」

リュウセイ

（乾さんの時よりこええ！）

プトティラ（シンジ）

「思いつきり、いくよ？」

リュウセイ

「その怒りぶつけてくださいー！」

プトティラ（シンジ）

「遠慮なく…。…なんでプトティラでやらせたんだあああああ！」

ドゴーン バコ

シンジ

「…あ」

リュウセイ

「どうしましたー？」

シンジ

「…ひびはいった」

リュウセイ

「…新しいのにして二回目行きましょう」  
シンジ

「え、二回目？」

リュウセイ

「合計三回しますよ？」

シンジ

「えー…orz」

津上

「げ、元気出っして、辰巳君！」

巧

「俺なんてパンチホッパーだし…」

渡

「そ当然了よ」

剣崎

（違和感ないような気がしたんだが…）

巧

「…剣崎？」

剣崎

「何でもない何でもないから睨むな！」

リュウセイ

「じゃあよろしくお願いしまーす」

タクミ

「なんか、大変だったね？」

リュウセイ

「まだ二回ありますけどね…」

タクミ

「…がんば」

リュウセイ

「了解です…」

ナイト

「さて、切るか」

ブレイド

「だなー」

デイエンド

「サソードだったよね…」

Rキバーラ

「なんか違和感ありますよね、やっぱり」

アギトSF

「違和感持たないほうがおかしいだろ」

ブレイドKF

「泣いていい…?」

カブトHF

「泣くな泣くな。やったら楽しいから」

タクミ

「ソウジさん、そう言う問題じゃないと思いますよ…?」

カブトHF

「ん?」

タクミ

「…とりあえず、次またくるんでちゃちゃっとお願ひします」

Rキバーラ

「鬼進行ですね」

タクミ

「時間ありませんから」

デイエンド

「じゃあやろうか」

<カメンライド サソード!>  
<ソードベント>  
<スラッシュ>  
<ハイパースラッシュ>  
Rキバーラ  
「ソニックスタップ!」  
アギトSF  
「よつと」  
ブレイドKF  
「やけくそだー!」 スラッシュ

タクミ

(改めて見張り役でよかったー…!)

フィリア

「切れましたー!」

タクミ

「え?…あ、今切ってるよー。多分もう少しで……」

ドカーン ばーん ベキ

タクミ・フィリア

「……………」

タクミ

「…何も聞かなかったことで」

フィリア

「了解です」

ソウジ

「切れたぞー」

タクミ

「あ、どうもです。…じゃあ次くるんで、来たらまた切ってください」

い

ソウジ

「りょーかーい」

フィリア

「ソウジさんノリノリですね…」

タクミ

「あ、あはは……。…あ、そつだ。はい。…焦がさないようにね」

フィリア

「…どうでしょう?」

タクミ

(不安すぎる!)

龍騎 (なのは)

「なんか新鮮だなー…」 シンジからデッキ借りた

リュウガ(フェイト)

「ホント…でも、よくこれであんな戦闘できるよね…」

セナ(BJ)

「慣れだよ、慣れ」

ヒオリ(BJ)

「まあ確かに」

龍騎SV

「あつはははー」

ディケイト  
D響鬼

「でも今回は戦闘なしだから大丈夫だろ」

タジャドル

「まあね」

フィリア

「じゃあ焼くのお願いします。…焦がさない程度に」

セナ

「じゃあいつちよやりますか!」

<<ストライクベント>>

<シユートベント>

<アタックライド 鬼火>

タジャドル

「せいやー」 クジャク光弾

セナ

「フレイムバーストー」

ヒオリ

「ファイアーブラスト」

フィリア

「わー、餅から火が上がってるー（棒）」

セナ

「これでいいんでしょう？」

フィリア

「うん、まあね」

龍騎SV

「でもさー、さっきからあつちからすごい音が…」

「でやあああああ！

ズドオオオオン…」

「あー、力入れすぎですってシンジ兄さん！

「あーあ、これで壊れたの3個目…」

「これ以上餅無駄にしないでー！

「プトティラってこんなにパワーあつたのか…！？」

「そこじゃない、そこじゃねえよ剣崎！？」

フィリア

「気にすんな」

龍騎SV

「気にしたら負けなんだねオーケー」

これを3回繰り返しました。ちなみにシンジはライダーの力でも簡単には壊れない臼を簡単に5回ほど壊したため、何回か餅が駄目になりました。

リュウセイ

「いやー、無事に完成したねー」

フィリア

「ねー」

シンジ

「全つ然無事にじゃない!?!」

カズマ

「シンジ落ち着いてー!」

シンジ

「なんで俺プトティラ?なんでプトティラだったああああ!普通に龍騎でいいだろおお!もしくはサゴーズ!なんでプトティラにしたああああ!」

リュウセイ

「俺に聞かないでー!」

フィリア

「さ、作者に聞いてくださああい!?!」

あみだです(キリ

シンジ

「このやるおおおおお！？」

カズマ

「ちょ、シンジマジおちついてええええ！？」

巧

「おい辰巳、落ち着けて」

津上

「落ち着いて！折角お餅作ったんだし、食べようよ！」

シンジ

「…」 無言で座った

やっと食べることになりました。二十歳以上はお酒、未成年にはジュースが配られました。

剣崎

「しっかし…結構作ったな…」

翔太郎

「確かになー…。食べきれんのか？」

フィリップ

「結構多いし…大丈夫じゃないかな？」

士

「気にすることはないだろ…」

巧

(むしろ酒が配られた時点で嫌な予感がするんだが…?)

シンジ



「そういえばさーカズマ」

カズマ

「むうー？（訳：なにー？）」

シンジ

「突然だけどー、好きな人いるの？」

カズマ

「むぎゅー！？」

シヨウイチ

「お、おい大丈夫か？」

カズマ

「むーうー…！（訳：詰まった…！）」

ソウジ

「大丈夫かー？」

シンジ

「…なんかごめん」

カズマ

「ゲフゲフ！」

ユウスケ

「シンジさん、どかんと一発！」

シンジ

「えー…。ま、いつか」 構える

ソウジ

「いいんだ！？」

シンジ

「でいやー！」

ドス

カズマ

「ゴフ！？」

シヨウイチ

「カズマ…!？」

カズマ

「うげー…。…死ぬかと思った…」

リュウセイ

「もぐもぐ…結構うまくいったなー」

フィリア

「ほうはれー（訳：そうだねー）」

リュウセイ

「いろいろ大変だったけど…」

なのは

「にやはは…。まあね…」

レン

「でも楽しかっただろ」

セナ

「うんうん」

フェイト

「うん。初めてライダーにもなれたし…」

ツバサ

「楽しかったなー」

士

「…あれ？夏海は？」

劍崎

「ああ光ならさっき一旦部屋に戻るって」

士

「ふーん…」

ユウスケ

「リア充爆はーっ!」 士にリアアット

士

「ぐえ！」

海東

「士あああ！？」

シヨウイチ

「ユウスケよってるな」

ソウジ

「ああ」

カズマ

「完璧に…ゲホ」

シンジ

「大丈夫かー？」

タクミ

「冷静ですねあんたらは！」

リュウセイ

「…ということで、次回もお楽しみに！」

フィリア

「みにー」

城戸

「妙なところで終わらせないで！？」

あけましておめでとございませう！前編（後書き）

続きは後編！

あけましておめでとじいねいませすー！後編（前書き）

前回の続きです！

あけましておめでとございます！後編

リュウセイ

「えー、前回いろいろありましたが、すべてスルーで……」

映司

「よくないよー！？」

渡

「スルーは駄目だと思いますよ？」

リュウセイ

「えー……」

フィリア

「…今回最初の企画はー、」

リュウセイ

「シンジさん対フィリアの羽子板対決ー」

シンジ

「俺羽子板覚えてない」

フィリア

「羽子板って何？」

リュウセイ

「2人とも知らなかったあああ…orz」

シンジ

「い、いや、知ってるよ？知ってるんだけど…覚えてない」

フィリア

「羽子板？何それおいしいの？」

城戸

「おいしくないおいしくない」

リュウセイ

「簡単に言つと…テニスっていつかバドミントンの感じ？」

シンジ

「…何となく分かったような…」

フィリア

「…?」

リュウセイ

「この板もって…、この羽うつ」

フィリア

「あー、聞いたことあるようなないような…。まあいいや」  
シンジ

「よし、じゃあやる」

士

「な、なんで俺ラリアットされた…!?!」

夏海

「どうしたんですか?…って、ユウスケ…!?!」

海東

「あ、ナツメロン」

夏海

「夏海です!ユウスケどうしたんですか?」

海東

「酔ってリア充爆は…っって言い始めた」

夏海

「なんですかそれ…!」

ユウスケ

「リア充爆は…っ」

津上

「小野寺君、落ち着いて…!」

ソウジ

「とりあえずリュウセイ君達に被害が行かないようにしないと…」

ユウスケ

「なんでリア充多いんだー」

シヨウイチ

「つてこら！殴ろうとするな！」

カズマ

「ユウスケ、そのうち会えるから！いい人に！」

ユウスケ

「だってあねさん死んじゃったし…」

渡

「僕も好きだった人いなくなりましたよ？」

フィリップ

「僕なんて初めて好きになった相手が実の姉だったんだよ…？」

翔太郎

「俺は運ねえし…」

ソウジ

「人生そんなもんだ。…ということで、しばらくおやすみ…」シヨ

ウイチ、ゴー！」

しばらくお待ちください

フィリア

「あ、意外と楽しいかも」

シンジ

「久しぶりにやったなーホント…」

リュウセイ

「どっちが勝つかなー」

城戸



「まだどつちもはずしてないよねー」

巧

「いや誰があつち（シヨウイチ達のほう）に突っ込めよ頼むから！」

劍崎

「まあ仕方ないんじゃないか？…つかいごとに巻き込まれたくないし…」

ツバサ

「そうですねー」

なのは

「流石にあれは危ないかと…」

ヒオリ

「まだ死にたくないんで」

フェイト

「だから誰もとめに行かないんだ…」

レン

「あれに飛び込んでいくのは死なない自信がある人だけ」

セナ

「そうですねー。まあ行く人はいないと思うけどね」

シンジ

「でもさーフィリア、本当に知らなかったの？」

フィリア

「聞いたことはあつたんですけど、やったことないです」

シンジ

「上手すぎるでしょ」

フィリア

「一応スポーツはできます」

シンジ

「いや、そういうことじゃないよっな…」

フィリア

「そうですねー…?」

城戸

「運動神経もよくて頭よくてかわいいって…何それ勝ち組」

巧

「お前よりも頭はいいんじゃないか?」

城戸

「何それひどい」

剣崎

「そしてそんな子が彼女のリュウセイも勝ち組」

リュウセイ

「いやあ〜…/」

なのは

「……」

フェイト

「なのは、怖いよ…?」

ツバサ

「無言やめろ」

剣崎

「そつえば、何気に城戸もリア充じゃないか?」

巧

「ああ、確かに」

城戸

「え?」

剣崎・巧

「霧島美穂」

城戸

「いや、つきあってな」

クウガRU

「リア充爆はあああつー!」

城戸

「ぎゃあああああ!?!」 シンジとフィリアの方に飛んでいった

セナ

「城戸さあああん!?!」

レン

「…あ、シンジさんからぶった」

リュウセイ

「じゃあフィリアの勝ちだね!」

セナ

「ってこらそこ!きれいにスルーしてんじゃないの!」

フィリア

「あー楽しかった!」

シンジ

「うん楽しかったー。…って、城戸さん何があったあああ!?!」

城戸

「ユウスケに吹っ飛ばされたー…」 地面に倒れてる

シンジ

「それで生きてるって…城戸さん何者」

城戸

「人間…ぐふ」

フィリア

「ちよ、城戸さあああん!?!」

リュウセイ

「ギャグ補正あるし、大丈夫大丈夫!」

タクミ

「そーいう問題じゃない!?!」

巧

(城戸までぶっ飛ばされてるのに、尾上はぶっ飛ばされないんだな

…)

タクミ

「ぶっ飛ばされたくないです」

巧

「人の心を読むな心を!？」

この後酔ったユウスケは、シヨウイチとカズマが頑張って止めました。

ユウスケ

「　」 ほぼ屍

シヨウイチ

「疲れた……」

カズマ

「なにあのユウスケ凶暴……」

ソウジ

「おつかれー」

シンジ

「あ、そうだ」

リュウセイ

「どうしましたー?」

シンジ

「いや、俺たちからみんなにお年玉を……って思ってね」

リュウセイ

「マジツすか!？」

フィリア

「でも……いいんですか?もらっちゃって」

津上

「いいんだよー。… たつくんもね、みんなにあげるために頑張ってくれたらしいよー」

巧

「…津上、誰から聞いた、それ？」

津上

「啓太郎君からだよ？」

巧

「よし帰ったらぶん殴る」

剣崎

「……………素直じゃねー(ボソッ)」

巧

「剣崎……………？」

剣崎

「さーせん」

シンジ

「はい、俺たちから」

なのは

「ありがとうございます」

ツバサ

「…何年ぶりだろー…」

フェイト

「あはは…」

ヒオリ

「…俺記憶ないしなー…あはは…」

士

「…元気出せ、な？」

海東

「もつすこし胸張ってもいいんだよ…」

夏海

「記憶なくてもヒオリ君はヒオリ君なんですから」

渡

「なんかあっちシリアスモードになってませんか？」

劍崎

「気のせいだと思え」

巧

「気にしたら負けだ」

リュウセイ

「あ、アスムとかはどうするんっすかー？」

シンジ

「ヒオリ君あたりに頼もうかなーって」

ソウジ

「2人だけなし、つてのはなんかかわいそうだしな」

シヨウイチ

「わけんの苦労したかな…」

シンジ

「確かにそうでしたねー。…ね、カズマ」

カズマ

「…」

シンジ

「カズマー？」

カズマ

「zzz」 疲れて寝始めた

レン

「寝てますよ？」

セナ

「ユウスケさん止めるの疲れたんじゃないですか？」

ソウジ

「あー、なるほど…」

シンジ

「とりあえず、カズマーここで寝ると風邪ひくぞー」

カズマ

「zzzz」

シンジ

「カズマー」

カズマ

「んえ…？」

タクミ

「みんなはどんな風に使うの？」

リュウセイ

「とりあえず、貯めておこうかな…」

フィリア

「私もです」

レン

「んー…。…必要なもの買うか」

セナ

「服とかね」

なのは

「私も貯めようかな。…フェイトちゃんとツバサ君は？」

フェイト

「私は、生活費にでもって思って」

ツバサ

「俺もかなー。…だってフェイトインスタントしか食ってなかった

し…」

フェイト

「ごめんなんなさーい…」

なのは

「ツバサ君保護者だね、もう」

士

「ヒオリは？」

ヒオリ

「俺は……。…夏海さん…というか、写真館に役に立つようなことに使おうかなって…」

夏海

「え、なんですか？」

海東

「自分の好きなように使っていていいんだよ？」

ヒオリ

「いや、いつもお世話になってますし、突然のことだったのに、受け入れてくれたんで…。…まあ恩返しみたいなもの、ですかね」

士・海東

「「すっごいいい子だこの子おおおお……。…！」」 号泣

夏海

「うう…優しいですね…ヒオリ君…！」 上に同じく

リュウセイ

「皆さん楽しかったですかー？」

全員

「「「おー」「」」

フィリア

「カオスでしたか…？」

全員

「「「否定はしない」「」」

リュウセイ

「残念ですがこれで終わりとなります」

シンジ



「またみんなで集まりたいね」

シヨウイチ

「ああ」

映司

「企画だから、とか言うのはなしにね」

渡

「ですね」

リュウセイ

「それじゃあ、また会えることを祈って…（）というか祈らなくても会えますけど（）またいつか！」

フィリア

「きつと会えますよ。信じていれば（）信じてなくても結局会えるし

…（）！」

巧

「いいこと言ってるのに、（）が、（）が余計だ…！」

城戸

「すぐいいことなのに、（）がすべて台無しにしてる…！」

カオスな正月、これにて閉幕！

あけましておめでとございます！後編（後書き）

正月っっていえるのかってね！遅くなってすみません…orz  
でもいそいでライダーワールドの方書いてこないと…！

あ、その前にこれは忘れてはいけない。

リクエストをくれた、郡司侑輝さん、ギャツビーさん、フォルネウスさん、バースさん、ありがとうございます！

…でも上手く書けなくてすいません…orz

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2308ba/>

---

特別編まとめ

2012年1月5日23時52分発行